

に登録ができません。「ここでやめてもいいんだろうか？」熟年先生は悩んでしまいます。

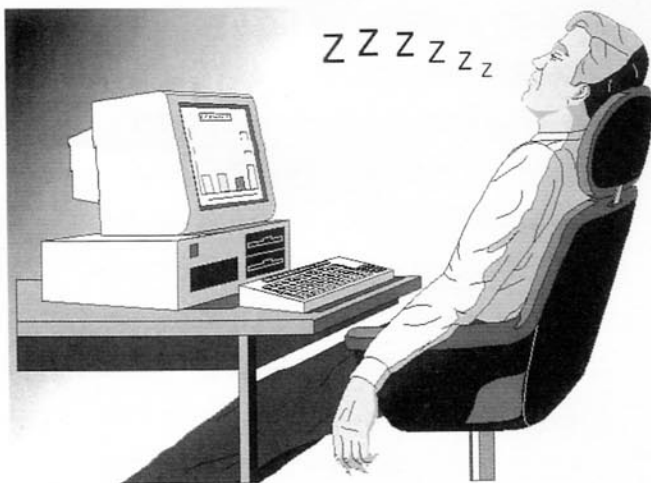
結局、NTTに相談して回線の工事（といっても簡単なもの）に来てもらいます。筆者の場合もホームテレホンだったので、自分でモジュラーケーブルの回線をほどいて繋ぎなおした記憶がありますが、これはあまりおすすめできません。

## デスクトップパソコンはファミコンだ

やっと購入して動き出したパソコン、自分ひとりで楽しんではいけません。初めてのパソコンは家族が集まる居間に置きましょう。そして家族皆で使うのがいいでしょう。

熟年先生の奥さまや娘さん、同居のお母さんも皆で使うほうがよいのです。自分だけでマスターするのは大変。あなたのご家族だってきっと興味はあはずです。パソコンの導入を手伝ってくれた友人が来たときも、1人だけで教わず、誰でもいいから家族と一緒に見てもらいましょう。2つの目より4つの目、8つの目と増えれば忘れないし、確実です。

だいたい教えてくれる人は、使い慣れているのでどんどん進んでたくさんのご家族のことを一気にやっけてしまいます。聞いているほうは「うんうん」頷いて、「す



●自分ひとりでマスターするのは大変

ごいね、そんなこともできちゃうんだ」と感心しますが、彼が帰ってしまうと、教わったことを思い出すのが大変でかなりの部分を忘れてしまうはず。そんなわけで是非ともご家族で始めるのがいいでしょう。すなわちファミリーコンピュータ(ファミコン)ですね。

基本的なことはその都度メモをするか、実際に自分でやらせてもらって、動作を先生に見てもらいたいかもしれません。

## 好奇心は人生のビタミン剤

前号でも書きましたが、パソコンはテレビと形は似ていますが、電源を入れただけでは何も番組は始まりません。居間でテレビ番組を見るのも楽しいひとときかもしれません。ニュースを見るのも情報を得る手段としてはよいでしょう。しかしながら“テレビを見る”という動作は受動的。こちらから積極的に情報を得たり、何かクリエイティブな仕事をすることはできません。パソコンは実に能動的、行動的な機械なのです。すなわち、こちらから行動を起こさなければ何も仕事をしないけれど、ひとたび使い方を覚えれば有能なあなたの手足や目耳口になるのです。あなたをアクティブにする、そんな機械を手に入れたのです。

10年前、パソコンはまだマニアックでした。マウスでいろいろな仕事ができる環境の整った、アップル社のMacintoshは9インチの白黒画面で50～60万円はしました。今のパソコンの何百分の1の能力しかありませんでしたが、そんな高価な機械でも当時は筆者にとって人生のビタミン剤、さまざまな好奇心を満たしてくれました。

ここ10年のパソコンの能力の進歩は学校の教室を例にとるとわかりやすいかもしれません。

学校の教室を思い浮かべてください。あなたは学習机と1人分のロッカーを使うことができます。机の上に鉛筆や消しゴム、教科書、ノートを出して学習することができました。ロッカーには教科書や辞書、絵の